

令和元年度

九州歯科大学

動物実験委員会報告書

目 次

	頁
1 動物実験委員会活動	2
2 講習会の日程および内容	3
3 動物実験規程	4
4 実験計画の承認・実施及び報告等に関する細則	7
5 実験委員会運営要領	9
6 実験動物飼養保管等に関する細則	1 1
7 令和元年度に審査された動物実験計画	1 4
8 動物実験施設利用による研究業績	1 7
9 動物実験施設利用状況	2 2
1 0 年間運営についての総括	2 4

1 動物実験委員会活動

平成 31 年

- 4 月 2 日：第 1 回委員会、実験計画書 1 件
- 4 月 3 日：第 1 回動物実験施設利用者講習会
- 4 月 9 日：第 2 回委員会、実験計画書 1 件
- 4 月 16 日：第 3 回委員会、実験計画書 1 件

令和元年

- 5 月 17 日：第 4 回委員会、実験計画変更願 1 件
- 6 月 6 日：第 5 回委員会、実験計画書 2 件
- 6 月 21 日：第 6 回委員会、実験計画書 1 件
- 7 月 2 日：第 7 回委員会、実験計画書 1 件
- 7 月 10 日：第 8 回委員会、実験計画書 1 件
- 8 月 2 日：第 9 回委員会、実験計画書 1 件
- 8 月 6 日：第 10 回委員会、実験計画書 1 件
- 8 月 28 日：第 11 回委員会、実験計画書 1 件
- 8 月 28 日：第 12 回委員会、実験計画書 1 件
- 9 月 6 日：第 13 回委員会、実験計画書 1 件
- 9 月 13 日：「平成 30 年度九州歯科大学動物実験委員会報告書」作成、併せて福岡県、福岡県立大学、福岡女子大学へ CD を送付
- 9 月 26 日：第 14 回委員会、実験計画書 1 件
- 10 月 4 日：第 15 回委員会、実験計画書 1 件
- 10 月 18 日：第 16 回委員会、実験計画書 1 件
- 10 月 29 日：第 17 回委員会、実験計画書 3 件
- 11 月 25 日：第 18 回委員会、実験計画書 1 件
- 11 月 25 日：第 2 回動物実験施設利用者講習会
- 11 月 27 日：第 19 回委員会、実験計画書 1 件
- 12 月 19 日：第 20 回委員会、実験計画書 1 件

令和 2 年

- 1 月 6 日：第 21 回委員会、実験計画書 1 件
- 1 月 9 日：第 22 回委員会、実験計画変更願 1 件
- 1 月 24 日：第 23 回委員会、実験計画書 1 件
- 2 月 25 日：第 24 回委員会、実験計画書 1 件
- 2 月 27 日：第 25 回委員会、実験計画書 2 件
- 3 月 13 日：第 26 回委員会、実験計画書 1 件
- 3 月 18 日：第 27 回委員会、実験計画書 1 件
- 2 月 24 日：第 28 回委員会、実験計画書 1 件

2 講習会の日程および内容

2-1 講習会日程

参加人数・・・34名（2019年4月3日）
本館6階601講義室 午後5時～6時
入館指導・・・4月10日、11日

参加人数・・・6名（2019年11月25日）
本館3階301講義室 午後5時～6時

参加人数・・・2名（研究室配属学生）（2020年1月6日）
本館3階コンピューター演習室 午後4時～5時
教員と入館するため、入館指導無し

2-2 講習会内容（上記3講習会ともに基本的に同一内容）

動物実験委員会より

- ・公立大学法人九州歯科大学動物実験規程について
- ・動物実験計画書作成の手引き
- ・学内ホームページ利用について
- ・動物愛護の観点から

動物実験施設より

- ・動物実験施設の入館方法について
- ・動物実験施設の利用について
- ・動物実験施設の現状と今後について
- ・入館指導のお知らせ
- ・飼育スタッフからのお願い

その他より

- ・放射線防護研修
- ・実験動物の感染症について
- ・人畜共通感染症について

配布資料

- ・公立大学法人九州歯科大学動物実験規程
- ・動物実験計画書
- ・動物実験計画書記載内容チェック表
- ・痛み・苦痛・安楽死の評価と基準
- ・九州歯科大学動物実験施設利用心得
- ・放射線防護研修資料
- ・飼育スタッフからのお願い
- ・施設提出書類の書き方

小テスト 講習内容の確認の為、小テストを実施した。

3 動物実験規程

公立大学法人九州歯科大学動物実験規程

平成19年3月28日
法人規程第1号

第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は、「動物の愛護及び管理に関する法律（昭和48年法律第105号）」（以下「法」という。）、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（平成18年環境省告示第88号）」（以下「飼養保管基準」という。）、及び文部科学省が策定した「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（平成18年6月）」（以下「基本指針」という。）を踏まえ、日本学術会議が作成した「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（平成18年6月）」を参考に、科学的観点、動物愛護の観点及び環境保全の観点並びに動物実験等を行う教職員・学生等の安全確保の観点から、公立大学法人九州歯科大学（以下「本学」という。）における動物実験等の適正な実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(基本原則)

第2条 動物実験等については、法、飼養保管基準、基本指針、内閣府告示の「動物の処分方法に関する指針」、その他の法令等に定めがあるもののほか、この規程の定めるところによるものとする。

- 2 動物実験等の実施に当たっては、法及び飼養保管基準に即し、動物実験等の原則である代替法の利用（科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限り動物を供する方法に代わり得るものを利用することをいう。）、使用数の削減（科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限りその利用に供される動物の数を少なくすること等により実験動物を適切に利用することに配慮することをいう。）及び苦痛の軽減（科学上の利用に必要な限度において、できる限り動物に苦痛を与えない方法によってしなければならないことをいう。）の3R（Replacement, Reduction, Refinement）に基づき、適正に実施しなければならない。

(定義)

第3条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 動物実験等 動物を教育、試験研究又は生物学的製剤の製造の用その他の科学上の利用に供することをいう。
 - (2) 実験動物 動物実験等の利用に供するため、施設等で飼養または保管している哺乳類、鳥類又は爬虫類に属する動物（施設等に導入するために輸送中のものを含む。）をいう。
 - (3) 動物実験計画 動物実験等の実施に関する計画をいう。
 - (4) 動物実験実施者 学長の許可を受け、動物実験等を実施する者をいう。
 - (5) 動物実験責任者 動物実験実施者のうち、学長の許可を受け、動物実験等の実施に関する業務を統括する者をいう。当該実験における責任者である。
- 2 上記に掲げるもの以外の用語の意義は、「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（平成18年6月）」で使用する用語の例による。

第2章 学長の責務

(責務)

第4条 学長は、本学における動物実験等の実施に関する最終的な責任を有する。

2 学長は、動物実験責任者から提出された動物実験計画について、動物実験委員会の審査を経て承認を与え、又は与えない。

3 学長は、動物実験等の終了の後、動物実験計画の履行結果について報告を受け、必要に応じ適正な動物実験等の実施のための改善措置を執る。

第3章 動物実験委員会

(動物実験委員会の設置)

第5条 学長から諮問を受け、次に掲げる業務を実施する動物実験委員会を設置する。

(1) 動物実験計画が指針等及び本規程に適合していることの審議

(2) 動物実験計画の実施の結果に関する審議

(3) その他動物実験等の適正な実施に関し学長より諮問される事項の審議

2 動物実験委員会は、次に掲げる委員で組織し、学長が委員を指名する。

(1) 動物実験等に関して優れた識見を有する者 若干名

(2) 実験動物に関して優れた識見を有する者 若干名

(3) その他学識経験を有する者 若干名

3 動物実験委員会の運営については、別に定める。

第4章 動物実験施設

(動物実験施設の設置)

第6条 大学における歯学・医学研究の推進のために、歯学・医学に関する動物実験の共同利用の場として、動物実験施設を置き、その設置承認手続き等については、別に定める。

2 動物実験施設における実験動物の飼養及び保管は、飼養保管基準を踏まえ、科学的観点及び動物愛護の観点から適切に実施する。

3 動物実験施設においては、安全管理に注意した実験動物の取扱いを行う。

4 動物実験施設の運営については、別途定める。

(施設長)

第7条 動物実験施設の業務を統括するため施設長を置き、学長が指名する。

(動物実験施設運営部会)

第8条 動物実験施設等の円滑な運営に資するために、動物実験施設運営部会を設置する。

2 動物実験施設運営部会の構成及び運営については、別に定める。

第5章 動物実験等の実施その他

(科学的合理性の確保)

第9条 動物実験責任者は、動物実験等により取得されるデータの信頼性を確保する観点から、動物実験計画を立案し、動物実験等を適正に実施する。

2 この場合において必要な事項は別に定める。

(教育訓練等の実施)

第10条 学長は、動物実験実施者等に対し、適正な動物実験等の実施並びに実験動物の適切な飼養及び保管を行うために必要な基礎知識の修得を目的とした教育訓練の実施その他動物実験実施者の資質向上を図るために必要な措置を講じる。

(基本指針への適合性に関する自己点検・評価及び検証)

第11条 学長は、動物実験等の実施に関する透明性を確保するため、定期的に、本学において実施された動物実験等の基本指針への適合性に関し、自己点検・評価、及び検証を行うよう努めるものとする。

(情報公開)

第12条 学長は、本学における動物実験等に関する情報（動物実験等に関する規程、実験動物の飼養保管状況、自己点検・評価、検証の結果等）について、年報等において公表する。

第6章 補則

(準用)

第13条 第3条第2号に定める実験動物以外の動物を使用する動物実験等については、飼養保管基準の趣旨に沿って行うよう努める。

2 本学内における動物実験施設以外の施設において動物実験等を実施する場合は、動物実験施設における基準を準用し実験動物の飼養、保管及び取扱いの安全管理を行う。

この場合の設置承認手続き等については、別に定める。

(罰則)

第14条 学長は、本規程に違反した者の動物実験を直ちに中止させ、一定期間動物実験の許可を与えないことができる。

2 罰則の適応に関して、学長は動物実験委員会の助言を求めることができる。

(雑則)

第15条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成22年2月1日より施行する。

4 実験計画の承認・実施及び報告等に関する細則

公立大学法人九州歯科大学動物実験計画の承認・実施及び報告等に関する細則

(目的)

第1条 この規則は、公立大学法人九州歯科大学動物実験規程（平成19年法人規程第1号、以下「規程」という。）第9条に基づき、動物実験計画の立案、審査及び動物実験報告等の実施に関して必要な事項を定める。

(用語)

第2条 この規則による用語の意義は、規程で使用する用語の例による。

(動物実験計画の立案)

第3条 動物実験責任者は、次に掲げる事項を記載した動物実験計画書（様式第1号）を学長に提出しなければならない。

- (1) 研究題目
- (2) 実験計画の種類
- (3) 研究目的
- (4) 共同研究者がいるときは、その氏名、分野名及び連絡先
- (5) 実験期間
- (6) 使用動物種
- (7) 動物に加える処置の内容
- (8) 飼育場所及び実験室
- (9) 動物福祉に係る事項
- (10) 動物へ危険物を使用する場合は、その内容
- (11) その他の必要事項

(動物実験計画の審査)

第4条 学長は、動物実験責任者から動物実験計画書を受理したときは、動物実験委員会に審査を付議しなければならない。

2 動物実験委員会は、前項の計画書を受理したときは、審査して動物実験計画書審査結果報告書（様式第2号）を学長に交付するものとする。

3 学長は、前項の報告書を受理したときは、当該報告書により動物実験計画承認の可否を決定のうえ動物実験承認（不承認）通知書（様式第3号）を動物実験責任者に交付するものとする。

(動物実験責任者)

第5条 動物実験責任者は、前条第3項による承認を受けた後に実験を行わなければならない。

2 動物実験責任者は、第3条（1）から（11）に掲げる事項を変更する場合、又は前条第3項の通知を受けた日の翌日から起算して2年を経過したものは、同一の実験を行う場合であっても、第1号様式を学長に提出しなければならない。

3 動物実験責任者は、前項以外の軽微な変更等を行うときは、動物実験計画変更願（様式第4号）を学長に提出しなければならない。

4 動物実験責任者が変更になったときは、様式第1号を学長に提出しなければならない。

5 前3項の届出書等の審査においては、第4条を準用する。

6 動物実験責任者は、動物実験が終了又は中止したときは、遅滞なく動物実験結果報告書（様式第5号）を学長に提出しなければならない。

（雑則）

第6条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、動物実験委員会が別に定めるものとする。

附 則

（施行期日）

この規則は、平成21年12月1日より施行する。

5 実験委員会運営要領

九州歯科大学動物実験委員会運営要領

(目的)

第1条 この要領は、公立大学法人九州歯科大学動物実験規程（平成19年法人規程第1号。以下「動物実験規程」という。）第5条第3項の規定に基づき、動物実験委員会（以下「委員会」という。）の運営について定めるものとする。

(委員会の役割)

第2条 委員会は、次の事項を審議又は調査し、学長に報告又は助言する。

- (1) 動物実験計画が動物実験規程に適合していることの審議
- (2) 動物実験責任者及び動物実験実施者の承認に関する事
- (3) 動物実験計画の実施状況及び結果に関する事
- (4) 動物実験施設及び実験動物の飼養保管状況に関する事
- (5) 動物実験及び実験動物の適正な取扱い並びに関係法令等に関する教育訓練の内容又は体制に関する事
- (6) 自己点検・評価に関する事
- (7) 動物実験等に関する情報の公表に関する事
- (8) その他、動物実験等の適正な実施のための必要事項に関する事

(委員長等)

第3条 委員会は、動物実験規程第5条第2項の規定に基づき、学長から指名を受けた委員で構成される。

- 2 委員長は、大学院研究科長をもって充てる。
- 3 委員長は、あらかじめ委員のなかから副委員長1名を指名する。
- 4 副委員長は、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員となった場合、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会の定足数および議決方法)

第5条 委員会は委員の過半数の出席をもって成立する。委員会の議事は出席委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め説明又は意見を聴取することができる。

(守秘義務)

第7条 委員は、動物実験計画に関して知り得た情報を他に漏洩してはならない。

(委員の中立性)

第8条 委員は、自ら動物実験責任者となる動物実験計画の審査に加わることはできない。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、学務部が行う。

(雑則)

第10条 委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

(施行期日等)

1 この要領は、平成19年7月2日から施行し、同年4月1日から適用する。

(委員にかかる経過措置)

2 この要領の施行後、最初に指名された委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成20年3月31日までとする。

附 則

この要領は、平成22年2月1日から施行する。

6 公立大学法人九州歯科大学実験動物飼養保管等に関する細則

公立大学法人九州歯科大学実験動物飼養保管等に関する細則

(目的)

第1条 この細則は、公立大学法人九州歯科大学動物実験規程（以下「規程」という。）

第6条第1項並びに第13条第2項に基づき、実験動物の飼養保管施設等に係る設置承認手続き等に関して必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この細則における用語の意義は、規程及び「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（平成18年6月）」で使用する用語の例による。

(飼養保管施設)

第3条 実験動物の飼養保管は、動物実験施設、小動物観察室1（本館10階）及び小動物観察室2（本館11階）の飼養保管施設で行う。

(小動物観察室における飼養保管の要件)

第4条 小動物観察室1又は小動物観察室2において飼養保管を行うときは、次に掲げる要件を満たさなければならない。

- (1) マウス及びラットの飼養保管に限ること。
- (2) これらの繁殖を行わないこと。
- (3) 検収日から起算して、3ヶ月を越える期間の飼養保管をしないこと。

(管理者等)

第5条 動物実験施設、小動物観察室1又は小動物観察室2に管理者をおく。

- 2 管理者は、実験動物管理者をおくことができる。
- 3 実験動物管理者は、管理者を補佐し、実験動物の管理を担当する。
- 4 管理者は、実験動物を飼養又は保管するために飼養者をおかななければならない。
- 5 管理者等は、実験動物の輸送に当たり、飼養保管基準を遵守し、実験動物の健康及び安全の確保、人への危害防止等に努めなければならない。

(飼養保管施設の要件)

第6条 動物実験等のために設置する飼養保管施設の構造・設備は、次に掲げる要件を満たさなければならない。

- (1) 飼育室は、常時ドアで仕切られた動物実験専用の個室であり、動物が逸走しない構造と強度を有すること。
- (2) 窓を開けることなく常に換気し、適切な温度、湿度及び明るさを保つこと。
- (3) 床、内壁等は、清掃・消毒が容易な構造であり、動物種や飼養保管数に応じた衛生設備を有すること。
- (4) 飼養保管数や飼養する動物の習性等に応じた構造の飼育設備・ケージ等を備えること。
- (5) 遺伝子組み換え動物の飼育においては、「研究開発等に係る遺伝子組換え生物等の第二種使用等に当たって執るべき拡散防止措置等を定める省令（平成16年文部科学省・環境省令第1号）」に定められた表示及び逸走防止対策を講じること。
- (6) 臭気・騒音・動物残渣（死体、汚物、汚物の付着した床敷等）等による周辺環境への悪影響を防止する設備が備えられていること。

- (7) その他物理的・化学的に危険な材料・設備，病原微生物を取り扱う実験を行う場合の飼育設備については，専門家等の指示に従い，必要な措置を講じること。

(実験室)

第7条 学内において，第3条に定める飼養保管施設以外の施設（以下「実験室」という。）においても一時的に実験動物を保管し，実験を行うことができる。ただし，病院棟を除くものとする。

- 2 実験室は，動物実験責任者の属する分野の長（分野の長を代理する者を含む。）が管理者としての責任を負う。複数の分野が使用する場合は，その代表者が管理者となる。
- 3 実験室では，実験動物の搬入後48時間を超える保管をしてはならない。
- 4 動物実験実施者は，実験動物を輸送するに当たり，飼養保管基準を遵守し，第5条5項に掲げる事項を踏まえなければならない。

(実験室の要件)

第8条 実験室の構造・設備は，次に掲げる要件を満たさなければならない。

- (1) 実験動物が逸走しない構造及び強度を有し，並びに実験動物が逸走しても捕獲しやすい環境が保たれていること。
- (2) 排泄物，血液等による汚染に対して清掃や消毒が容易であること。
- (3) 常に清潔な状態を保ち，臭気，騒音，廃棄物等による周辺環境への悪影響を防止する措置が講じられていること。

(設置承認申請書)

第9条 施設等の管理者が，飼養保管施設をあらたに設置しようとするときは，飼養保管施設設置承認申請書（様式第1号）を学長に提出しなければならない。

- 2 分野長等が実験室を設置しようとするときは，実験室設置承認申請書（様式第2号）を学長に提出しなければならない。

(設置承認手続)

第10条 学長は，前条の申請書が提出されたときは，動物実験委員会へ審査を付議することができる。

- 2 動物実験委員会は，前項の付議がなされたときは，書類審査及び実地調査を実施のうえ，様式第1号又は第2号に意見を記載し，学長に提出しなければならない。
- 3 学長は，前項の動物実験委員会の意見を受けたときは，当該意見を参考にして飼養保管施設（実験室）設置承認の可否を決定のうえ，様式第1号又は第2号を施設等の管理者に交付するものとする。

(廃止届)

第11条 施設等の管理者は，飼養保管施設又は実験室を廃止しようとするときは，飼養保管施設（実験室）廃止届（様式第3号）を学長に提出しなければならない。

(定期的検査)

第12条 動物実験委員会は，飼養保管施設及び実験室が適切に管理されているかを定期的に検査し，その結果を学長に報告しなければならない。

- 2 学長は，前項の検査の結果，不適切な管理実態が明らかとなったときは，施設等の管理者に必要な応じて指導・勧告をしなければならない。
- 3 施設等の管理者は，前項の指導・勧告があったときは，当該問題点の改善を行わなければならない。

(雑則)

第13条 この細則に定めるもののほか、必要な事項は学長が別に定めるものとする。

附 則

- 1 第3条に掲げる飼養保管施設については、第9条1項の規定にかかわらず、飼養保管施設設置承認申請書(様式第1号)を学長へ提出し、その承認を受けることにより、この細則の施行前と同様に施設運営をすることができる。
- 2 この細則は、平成22年2月1日から施行する。

7 令和元年度に審査された動物実験計画

7-1 動物実験計画書の申請についてのまとめ

申請件数（変更願を含む）・・・合計 29 件

平成 31 年度、令和元年度

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
4	1	2	2	4	2	4	2	1	3	2	2	29

再審査件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・合計 24 件（83%）

再審査に際しての動物実験委員会からの主たる指摘事項

研究計画・内容の説明不足・・・・・・・・・・・・・・・・	20 件（83%）
薬剤名，投与量，投与経路の記載不備・・・・・・・・	9 件（38%）
使用動物数の軽減・・・・・・・・・・・・・・・・	5 件（21%）
記入漏れ・・・・・・・・・・・・・・・・	9 件（38%）
略語の意味が不明・・・・・・・・・・・・・・・・	0 件（0%）
動物実験施設利用未登録・・・・・・・・・・・・・・・・	2 件（8%）
不適切な安楽死・安楽死についての記載不備.....	7 件（29%）
麻薬研究者免許等についての記載不備.....	1 件（4%）
研究内容と苦痛軽減方法等の記載の整合性.....	4 件（17%）
苦痛の具体的な内容について記載不備.....	5 件（21%）
イヌ等の動物を使用する理由の記載不備.....	0 件（0%）
遺伝子組換え生物等委員会への未申請.....	0 件（0%）

承認された件数・・・合計 25 件（86%）

取り下げた件数・・・合計 2 件（7%）

却下された件数・・・合計 2 件（7%）

7-2 令和元年度に審査された動物実験計画書

許可番号	許可日	区分	研究題目
	取り下げ	変更	メカニカルストレスによる環境変化を用いた歯根膜弾性線維の役割の解明
19-002	2019. 5. 23	新規	ARONJモデルラットにおけるBP製剤休薬とPTH製剤の有効性の検討
19-003	不承認	変更	口腔乾燥がインプラント周囲組織に及ぼす影響の検討
19-004	2019. 6. 3	新規	グリア細胞由来神経栄養因子による損傷下歯槽神経の再生促進効果
19-005	2019. 6. 21	変更	実験的歯牙移動による歯根膜での活性酸素種産生と疼痛との関係
19-006	2019. 7. 8	新規	顎下腺と舌下腺の摘出がインプラント周囲粘膜、周囲骨へ与える影響
19-007	2019. 7. 18	新規	唾液腺炎症モデルマウスの機能評価と発現タンパクの解析
19-008	2019. 8. 16	新規	酵素処理ローヤルゼリーの骨格筋萎縮に対する作用の解明
19-009	2019. 8. 26	新規	口内炎モデルラットにおける三叉神経感覚核ニューロン応答の変調
19-010	2019. 9. 12	新規	基礎生命科学実習Ⅱにおけるマウスの解剖
19-011	2019. 9. 26	新規	アズキ由来フラボノイド Vignacyanidin のBMP 誘導性異所性骨化への影響
19-012	不承認	新規	鉄代謝制御タンパク質ヘプシジンの口内炎疼痛に対する作用
19-013	2019. 10. 28	新規	歯にメカニカルストレスを加えた時の歯根膜弾性繊維の機能的役割の検討
19-014	2019. 11. 6	新規	口内炎疼痛に対するヘプシジンの効果
19-015	2019. 11. 15	新規	Apert症候群モデルマウスを用いた上皮間葉相互作用の検索(その4)
19-016	2019. 12. 10	新規	ヘプシジンによる三叉神経感覚核侵害受容ニューロン応答の変調
19-017	2019. 12. 10	新規	悪性黒色腫の増殖・浸潤・転移における神経軸索誘導因子 Netrin-1の役割
19-018	2019. 12. 12	新規	TRPA1ノックアウトラットにおける口腔顔面領域の感覚異常
19-019	2019. 12. 12	新規	ラット咽喉頭部における陰イオンによる嚥下反射抑制メカニズム解明
19-020	2020. 1. 10	新規	悪性黒色腫細胞株B16の増殖・浸潤・転移におけるPlectinの役割の解明
19-021	2020. 1. 21	新規	ラット唾液腺タンパク質およびmRNA解析手技の確立
19-022	2020. 1. 24	新規	不動性骨格筋萎縮におけるTas1r1の役割

19-023	2020. 1. 24	変更	ローヤルゼリーの雌マウス骨格筋萎縮に対する作用の解明
19-024	2020. 1. 27	新規	Bioactive glass 配合セメントの有用性の検討
19-025	2020. 3. 10	新規	4年学生実習（全身麻酔薬および鎮痛薬のマウスに対する作用）
19-026	2020. 3. 18	新規	水酸化マグネシウムナノ粒子による破骨細胞分化メカニズムの解明
19-027	2020. 3. 27	新規	高齢マウスにおける唾液腺機能低下メカニズムの解明
19-028	2020. 3. 30	新規	顔面発生過程における下顎正中癒合部形成機構の解明

8 動物実験施設利用による研究業績

論文等

- 1) Morii A, Miyamura Y, Sago IM, Mizuhara M, Shikayama T, Naniwa M, Hitomi S, Ujihara I, Kuroishi KN, Gunjigake KK, Shiga M, Morimoto Y, Kawamoto T, Ono K.: Orthodontic force-induced oxidative stress in the periodontal tissue and dental pulp elicits nociception via activation/sensitization of TRPA1 on nociceptive fibers. *Free Radical Biology and Medicine*. 147:175-186, 2020.
- 2) Mizuhara M, Gunjigake KK, Kuroishi KN, Toyono T, Hitomi S, Morii A, Shiga M, Seta Y, Ono K, Kawamoto T. Vesicular nucleotide transporter mediates adenosine triphosphate release in compressed human periodontal ligament fibroblast cells and participates in tooth movement-induced nociception in rats. *110*, 104607, 2020.
- 3) 野代悦生、加来咲子、川元龍夫. ウサギの歯を実験的に種々に削合した時の咬合平面の推移について. *九州矯正歯科学会雑誌* 15(1):20-29, 2019.
- 4) Miyagi Y, Kondo Y, Kusuda Y, Hori Y, Yamazaki S, Munemasa T, Mukaibo T, Masaki C, Hosokawa R.: Submandibular gland-specific inflammaging-induced hyposalivation in the male senescence-accelerated mouse prone-1 line (SAM-P1). *Biogerontology*. 20(4): 421-432, 2019.
- 5) Yamazaki S, Masaki C, Nodai T, Tsuka S, Tamura A, Mukaibo T, Kondo Y, Ono K, Hosokawa R.: The effects of hyperglycaemia on peri-implant tissues after osseointegration. *J Prosthodont Res*. S1883-1958(19): 30072-30076, 2019.
- 6) Touyama K, Khan M, Aoki K, Matsuda M, Hiura F, Takakura N, Matsubara T, Harada Y, Hirohashi Y, Tamura Y, Gao J, Mori K, Kokabu S, Yasuda H, Fujita Y, Watanabe K, Takahashi Y, Maki K, Jimi E.: Bif-1/Endophilin B1/SH3GLB1 regulates bone homeostasis. *Journal of Cellular Biochemistry*. 11: 18793-18804, 2019.
- 7) Kobayakawa M, Matsubara T, Mizokami A, Hiura F, Takakura N, Kokabu S, Matsuda M, Yasuda H, Nakamura I, Takei Y, Honda H, Hosokawa R, Jimi E: Kif1c regulates osteoclastic bone resorption as a downstream molecule of p130Cas. *Cell Biochemistry and Function*. 38(3):300-308, 2020.
- 8) Matsubara T, Yaginuma T, Addison W.N, Fujita Y, Watanabe K, Yoshioka I, Hikiji H, Maki K, Baron R, Kokabu S. Plectin stabilizes microtubules during osteoclastic bone resorption by acting as a scaffold for Src and Pyk2. *Bone*, 132, 115209, 2020.
- 9) Yaginuma T, Gao J, Nagata K, Muroya R, Fei H, Nagano H, Chishaki S, Matsubara T, Kokabu S, Matsuo K, Kiyoshima T, Yoshioka I, Jimi E, p130Cas induces bone invasion by oral squamous cell carcinoma by regulating tumor epithelial-mesenchymal transition and cell proliferation. *Carcinogenesis*, bgaa007, 2020.

学会発表等

- 1) 柳沼 樹、古株彰一郎、吉岡 泉 : TGF- β シグナルが誘導する口腔扁平上皮癌細胞の浸潤、骨破壊における p130Cas の役割. 第 73 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会, 川越(4 月), 2019.
- 2) 柳沼 樹、水田奏、吉賀大午、吉岡 泉、古株彰一郎 : BMP-3b は、乳がん細胞の細胞増殖、移動能に関与する 第 64 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 札幌 (10 月), 2019.
- 3) Morii A, Hitomi S, Ujihara I, Sago-Ito M, Mizuhara M, Shikayama T, Gunjigake K, Kawamoto T, Ono K. Tooth movement-induced pain is mediated by mechanical and ROS stimulation via TRP channels. 第 7 回アジア太平洋国際カンファレンス, 福岡(5 月), 2019.
- 4) Mizuhara M, Gunjigake KK, Kuroishi KN, Toyono T, Hitomi S, Morii A, Shiga M, Seta Y, Ono K, Kawamoto T. Vesicular Nucleotide Transporter Mediates Pain during Orthodontic Tooth Movement. 第 7 回アジア太平洋国際カンファレンス, 福岡(5 月), 2019.
- 5) Shirakawa T, Matsubara T, William N Addison, Kuroishi K, Gunjigake K, Kokabu S, Kawamoto T. Slitrk1, an integral membrane protein, regulates osteoblast differentiation. 第 7 回アジア太平洋国際カンファレンス, 福岡(5 月), 2019.
- 6) 森井 葵、人見涼露、氏原 泉、左合-伊藤美紗、水原正博、郡司掛香織、小野堅太郎、川元龍夫. 機械・活性酸素感受性 TRP チャネルは歯の移動に伴う疼痛発症に関与する. 第 79 回九州歯科学会総会・学術大会, 福岡(5 月), 2019.
- 7) 白川智彦、松原琢磨、黒石加代子、郡司掛香織、川元龍夫、古株彰一郎. 膜タンパク質である Slitrk1 は骨芽細胞分化を調整する. 第 79 回九州歯科学会総会・学術大会, 北九州(5 月), 2019.
- 8) 井上愛沙子、黒石加代子、郡司掛香織、水原正博、真鍋義一、志賀百年、古株彰一郎、川元龍夫. 骨芽細胞における小胞型ヌクレオチドトランスポーター(Vnut)の発現と圧迫力付与による細胞傷害. 第 79 回九州歯科学会総会・学術大会, 北九州(5 月), 2019.
- 9) 渡邊 司、山地晃二郎、郡司掛香織、黒石加代子、志賀百年、川元龍夫. Apert 症候群モデルマウスの胎生期における顎下腺の形態解析. 第 79 回九州歯科学会総会・学術大会, 北九州(5 月), 2019.
- 10) Mizuhara M, Gunjigake KK, Kuroishi KN, Toyono T, Hitomi S, Morii A, Shiga M, Seta Y, Ono K, Kawamoto T. ATP Release via VNUT Mediates Pain during Orthodontic Tooth Movement. 97th General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research, Vancouver BC, Canada (June), 2019.
- 11) Shirakawa T, Matsubara T, William N Addison, Urata M, Kuroishi K, Gunjigake K, Sato T, Kawamoto T, Kokabu S. Slitrk1, an integral membrane protein, controls osteoblast differentiation. 97th General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research, Vancouver BC, Canada(June), 2019.
- 12) Jo K, Matsuyama K, Seta Y, Kawamoto T. The functional analysis of Mash1 in adult mouse taste bud differentiation. 第 53 回日本味と匂い学会, 高知(9 月), 2019.

- 13) 森井 葵、宮村侑一、人見涼露、鹿山武海、氏原 泉、左合-伊藤美紗、水原正博、郡司掛香織、川元龍夫、小野堅太郎. 機械・活性酸素種感受性 TRPA1 チャンネルは歯の移動に伴う疼痛発症に関与する. 第 61 回歯科基礎医学会学術大会, 東京(10 月), 2019.
- 14) 白川智彦、松原琢磨、William N Addison、黒石加代子、郡司掛香織、佐藤 毅、川元龍夫、古株彰一郎. 膜タンパク質 Slitrk1 は骨芽細胞分化を促進する Slitrk1, an integral membrane protein, promotes osteoblast differentiation. 第 37 回日本骨代謝学会学術集会, 兵庫(10 月), 2019.
- 15) 森井 葵、人見涼露、左合-伊藤美紗、水原正博、郡司掛香織、小野堅太郎、川元龍夫. 活性酸素は TRPA1 を介して歯の移動に伴う疼痛発症に関与する. 第 78 回日本矯正歯科学会学術大会, 長崎(11 月), 2019.
- 16) 渡邊 司、山地晃二郎、郡司掛香織、黒石加代子、左合美紗、志賀百年、川元龍夫. 胎生期における Apert 症候群モデルマウスの顎下腺の形態解析. 第 78 回日本矯正歯科学会学術大会, 長崎(11 月), 2019.
- 17) 井上愛沙子、黒石加代子、郡司掛香織、白川智彦、水原正博、真鍋義一、志賀百年、古株彰一郎、川元龍夫. 骨芽細胞の骨代謝機構における VNUT の役割. 第 78 回日本矯正歯科学会学術大会, 長崎(11 月), 2019.
- 18) 徐 嘉鍵、松山佳永、瀬田祐司、川元龍夫. 味蕾における Mash1 発現細胞系譜の検索. 第 78 回日本矯正歯科学会学術大会, 長崎(11 月), 2019.
- 19) 白川智彦、松原琢磨、黒石加代子、郡司掛香織、川元龍夫、古株彰一郎. トウレット症候群原因遺伝子の 1 つ Slitrk1 は十分な骨芽細胞分化に必須である. 第 78 回日本矯正歯科学会学術大会, 長崎(11 月), 2019.
- 20) 森井 葵、宮村侑一、左合-伊藤美紗、水原正博、鹿山武海、浪花真子、人見涼露、氏原 泉、郡司掛香織、黒石加代子、川元龍夫、小野堅太郎. 歯の移動に伴う酸化ストレスは TRPA1 の活性化および感作を介して疼痛を誘発する. 第 13 回三叉神経領域の感覚-運動統合研究会, 長野(11 月), 2019.
- 21) Jo K, Matsuyama K, Seta Y, Kawamoto T. The functional analysis of Mash1 in adult mouse taste bud differentiation. 2019 TAO Annual Meeting in Taichung (Innovation and Beyond), Taiwan Taichung(December), 2019.
- 22) Shirakawa T, Matsubara T, William N Addison, Urata M, Kuroishi K, Gunjigake K, Kawamoto T, Kokabu S. Slitrk1, an integral membrane protein, regulates osteoblastogenesis. The 2nd Asian Symposium on Cutting-edge Biotechnology and Chemistry (2ndASCBC), 福岡(12 月), 2019.
- 23) 徐 嘉鍵、松山佳永、瀬田祐司、川元龍夫. 味蕾における Mash1 発現細胞系譜の検索. 第 15 回九州矯正歯科学会学術大会, 熊本(2 月), 2020.
- 24) 白川智彦、松原琢磨、黒石加代子、郡司掛香織、川元龍夫、古株彰一郎. トウレット症候群原因遺伝子の 1 つ Slitrk1 は骨芽細胞分化を調整する. 第 15 回九州矯正歯科学会学術大会, 熊本(2 月), 2020.

- 25) 井上愛沙子、黒石加代子、郡司掛香織、白川智彦、水原正博、真鍋義一、中富満城、古株彰一郎、川元龍夫. 骨芽細胞の骨代謝機構における VNUT の役割. 第 15 回九州矯正歯科学会学術大会, 熊本(2 月), 2020.
- 26) Masaki C, Yamazaki S, Nodai T, Kondo Y, Hosokawa R.: Effects of post-osseointegration hyperglycemia on peri-implant tissues. 97th general session and exhibition of the IADR. Vancouver, BC, Canada (June), 2019.
- 27) 野代知孝, 正木千尋, 山崎誠也, 向坊太郎, 近藤祐介, 永井康熙, 小野堅太郎, 細川隆司: オッセオインテグレーション獲得後であっても糖尿病はインプラント治療のリスクなのか?. 第 49 回日本口腔インプラント学会学術大会 (第 37 回九州支部学術大会). 福岡(9 月), 2019.
- 28) 青沼史子, 中川智仁, 柄慎太郎, 近藤祐介, 向坊太郎, 永井康熙, 正木千尋, 細川隆司: 糖尿病治療薬における MRONJ の発症リスク抑制効果, 第 49 回日本口腔インプラント学会学術大会 (第 37 回九州支部学術大会). 福岡 (9 月), 2019.
- 29) Fukuda, H., Sato, S., Higashi, S., Habu, M., Tominaga, K., Takenaka, S., Takeuchi, H. : Anti-cancer effects of newly developed G-quadruplex binders. 12th JKBT, 北九州(12 月), 2019.
- 30) 福田 晃、竹内 弘 : テロメア DNA 構造を標的とする新規化合物の抗腫瘍効果と有害作用に関する検討. 第 56 回 日本口腔組織培養学会, 岐阜(11 月), 2019.
- 31) 福田 晃、東 泉、大住伴子、竹内 弘 : テロメア構造結合性新規化合物の抗癌効果の検討. 第 61 回歯科基礎医学会学術大会, 東京(10 月), 2019.
- 32) 福田 晃、土生 学、笹栗正明、富永和宏、竹内 弘 : テロメア DNA 構造結合性化合物の癌細胞特異的増殖抑制効果の検討. 第 73 回日本口腔科学会学術集会, 川越市(4 月), 2019.
- 33) Matsubara T, Urata M, Addison WN, Kokabu S. The important role of cytolinker plectin1 acts as scaffold of actin ring regulation in osteoclasts. Asia-Pacific Conference in Fukuoka 2019, Kitakyushu (May), 2019.
- 34) Honda H, Matsubara T, Addison WN, Nakamichi A, Kokabu S. Netrins regulate the proliferation of B16 murine melanoma cells. Asia-Pacific Conference in Fukuoka 2019, Kitakyushu (May), 2019.
- 35) Miyawaki A, Addison WN, Matsubara T, Habu M, Mitsugi S, Tominaga K, Kokabu S: BMP-3b regulates regeneration of skeletal muscle. Asia-Pacific Conference in Fukuoka 2019, Kitakyushu (May), 2019.
- 36) 松原琢磨、浦田真梨子、William N Addison、古株彰一郎 : 中間径フィラメント関連タンパク質 Plectin1 による破骨細胞の細胞骨格制御. 第 79 回九州歯科学会総会・学術大会, 北九州(5 月), 2019.

- 37) 宮脇有希、松原 琢磨、土生 学、三次 翔、富永 和宏、古株 彰一郎: BMP-3b は骨格筋再生を制御する. 第 79 回九州歯科学会総会・学術大会, 北九州(5月), 2019.
- 38) 松原琢磨、Addison William、古株彰一郎: 中間径フィラメント関連タンパク質Plectinによる骨吸収制御機構. 第37回日本骨代謝学会学術集会, 神戸(10月), 2019.
- 39) Addison William、松原琢磨、古株彰一郎: Satb2 and Zfp423 cooperatively integrate Wnt and Bmp Signaling to regulate myogenesis. 第37回日本骨代謝学会学術集会, 神戸(10月), 2019.
- 40) 宮脇 有希、William N. Addison、松原 琢磨、富永 和宏、古株 彰一郎: BMP-3bは骨格筋の再生を制御する. 第37回日本骨代謝学会学術集会, 神戸(10月), 2019.
- 41) Shirakawa T, Matsubara T, Addison WN, Kuroishi K, Gunjigake K, Kawamoto T, Kokabu S: Slitrk1, an integral membrane protein, regulates osteoblastogenesis. The twelfth Japan-Korea Joint Symposium on Bio-microsensing Technology, Kitakyushu (December), 2019.
- 42) Miyawaki A, Addison WN, Matsubara T, Habu M, Mitsugi S, Tominaga K, Kokabu S: BMP-3b suppresses myoblast differentiation, The twelfth Japan-Korea Joint Symposium on Bio-microsensing Technology, Kitakyushu (December), 2019.
- 43) 朴 真実, 中富満城, 笹栗正明, 土生 学, 片岡真司, 豊野 孝, 瀬田祐司, 富永和宏: Msx1 遺伝子変異と低酸素負荷の複合作用による口蓋裂発症機構の解析. 第 79 回九州歯科学会総会・学術大会, 北九州(5月), 2019.

9 動物実験施設利用状況

動物実験施設利用者数

動物実験施設延利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
口腔保存治療学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
歯周病学	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
口腔再建リハビリテーション学	35	11	15	22	5	4	2	40	25	18	8	6	191
解剖学	52	23	13	17	18	13	28	21	19	45	48	98	395
生理学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
分子情報生化学	22	7	1	17	9	19	12	4	24	21	8	5	149
口腔応用薬理学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
口腔機能発達学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
顎口腔機能矯正学	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	12
顎顔面外科学	5	0	4	13	0	0	0	17	1	0	7	0	47
口腔保健管理学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
口腔内科学	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
感染分子生物学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	123	41	33	69	32	37	42	82	69	84	71	116	799

再搬入飼育室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
口腔応用薬理学	0	9	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
共通基盤	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
口腔再建リハビリテーション学	17	2	0	0	19	17	30	0	0	1	12	11	109
計	17	11	10	0	19	17	30	0	3	1	12	11	131

10F小動物観察室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
生理学	100	86	90	98	66	37	53	80	98	127	133	128	1096
歯科複製制御学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
顎口腔機能矯正学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
口腔再建リハビリテーション学	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
計	110	86	90	98	66	37	53	80	98	127	133	128	1106

11F小動物室2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
口腔応用薬理学	10	9	11	23	18	5	0	1	0	1	1	1	80
感染分子生物学	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
顎顔面外科学	5	0	4	13	0	0	0	17	1	0	7	10	57
その他	1	4	1	2	1	3	0	0	0	0	0	0	12
計	17	15	16	38	19	8	0	18	1	1	8	11	152

合計 2048

実験室利用件数

第1実験手術室利用件数

0件

第2実験手術室利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
口腔保存治療学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
口腔再建リハビリテーション学	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
計	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5

BS実験室利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
解剖学	20	17	12	12	17	12	27	20	17	27	27	29	237
顎顔面外科学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
口腔病態病理学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
顎口腔機能矯正学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科放射線学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染分子生物学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
口腔再建リハビリテーション学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	20	17	12	12	17	12	27	20	17	27	27	29	237

SB実験室利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
口腔保存治療学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
顎顔面外科学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯周病学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
口腔内科学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学際教育推進ユニット	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
口腔再建リハビリテーション学	18	4	4	12	2	2	2	12	11	1	1	0	69
顎口腔機能矯正学	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
分子情報生化学	0	0	0	7	0	5	6	0	6	7	1	0	32
計	18	4	4	19	2	8	8	12	17	8	2	0	102

組み換え実験室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
分子情報生化学	8	6	0	0	0	0	0	0	4	3	3	2	26
解剖学	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
口腔保存治療学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
顎口腔機能矯正学	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
口腔機能発達学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
顎顔面外科学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	19	6	0	0	0	0	0	0	4	3	3	2	37

各分野での総飼育匹数

BS		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
解剖学	使用日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366	日
	総飼育数	3834	3695	3260	3350	2873	2677	2686	2114	2624	4039	3375	2765	37292	匹
顎顔面外科学	使用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	日
	総飼育数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	匹
口腔再建リハビリテーション学	使用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	日
	総飼育数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	匹
感染分子生物学	使用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	日
	総飼育数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	匹
SB-1飼育室															
口腔再建リハビリテーション学	使用日数	26	31	30	31	31	9	3	30	31	31	29	31	313	日
	総飼育数	196	357	501	180	237	36	36	337	143	341	266	136	2766	匹
解剖学	使用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	日
	総飼育数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	匹
分子情報生化学	使用日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366	日
	総飼育数	417	403	390	718	723	1075	790	626	770	350	145	155	6562	匹
SB-2飼育室															
顎顔面外科学	使用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	日
	総飼育数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	匹
口腔保存治療学	使用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	日
	総飼育数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	匹
口腔内科(顎顔面外科)	使用日数	30	31	30	31	31	30	31	17	0	0	0	0	231	日
	総飼育数	57	31	30	31	31	30	31	17	0	0	0	0	258	匹
学際教育推進ユニット	使用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	日
	総飼育数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	匹
歯周病学	使用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	日
	総飼育数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	匹
口腔再建リハビリテーション学	使用日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366	日
	総飼育数	624	620	570	576	427	267	138	484	754	744	646	682	6532	匹
ラット															
顎口腔機能矯正学	使用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	日
	総飼育数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	匹
組み換え飼育室															
分子情報生化学	使用日数	30	6	0	0	0	0	0	0	8	31	29	31	135	日
	総飼育数	4476	810	0	0	0	0	0	0	48	472	1136	2075	9017	匹
解剖学	使用日数	30	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	日
	総飼育数	546	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	550	匹
顎口腔機能矯正学	使用日数	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	日
	総飼育数	555	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	555	匹
再搬入飼育室															
口腔応用薬理学(マウス)	使用日数	0	24	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	日
	総飼育数	0	1131	939	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2070	匹
" (モルモット)	使用日数	0	24	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42	日
	総飼育数	0	153	141	0	0	0	0	0	0	0	0	0	294	匹
共通基盤教育部門	使用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	10	日
	総飼育数	0	0	0	0	0	0	0	0	419	0	0	0	419	匹
口腔再建リハビリテーション学	使用日数	30	9	0	0	31	30	31	0	0	8	29	31	199	日
	総飼育数	282	36	0	0	288	289	223	0	0	36	324	344	1822	匹
ウサギ室															
口腔再建リハビリテーション学	使用日数	30	15	14	2	0	0	0	0	0	0	0	0	61	日
	総飼育数	180	106	14	8	0	0	0	0	0	0	0	0	308	匹

動物系統別購入数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
Wisterラット	44	30	38	45	26	27	42	51	5	93	47	7	455
ddy マウス	3	83	22	14	0	6	0	0	32	2	0	2	164
C57BL/6N マウス	0	0	0	21	17	19	0	15	13	11	8	0	104
C57BL/6J マウス	12	5	12	20	0	0	12	16	0	17	8	8	110
KSN/slc ノードマウス	0	0	25	0	0	0	0	19	0	0	9	0	53
SAMP1/Sku マウス	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ハートレイ モルモット	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
BALB/c ノードマウス	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	6
Slitrk1 ヘテロノックアウト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	8
BMT-3b ヘテロノックアウト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	0	0	18
FVB/NJcl	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
B6N(Cg)-Msx1tm1b(KOMP)Wtsi/J	0	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	36
Wistar-Trpa1m1Kerd	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6
N14+PN/F14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10
FGFR2 S252W knock	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41	41
Tas1r1 KO マウス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10

10 年間運営についての総括

令和元年度の九州歯科大学の動物実験は、厳正に審査された実験計画書のもと、法令を遵守し、問題なく適正に行われたことを報告する。また、九州歯科大学動物実験規程の第 11 条に基づき、動物実験等の実施に関し透明性を確保するため、定期的に自己点検・自己評価およびその検証も行なっている。さらに、昨年度と同様、今年度も多くの研究者が動物実験施設を利用し、数多くの業績が発表された。

令和元年度九州歯科大学動物実験委員会報告書

■2020年8月発行

■発行：九州歯科大学 動物実験委員会委員長 松尾 拡

■編集：九州歯科大学 動物実験委員会

〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴 2-6-1